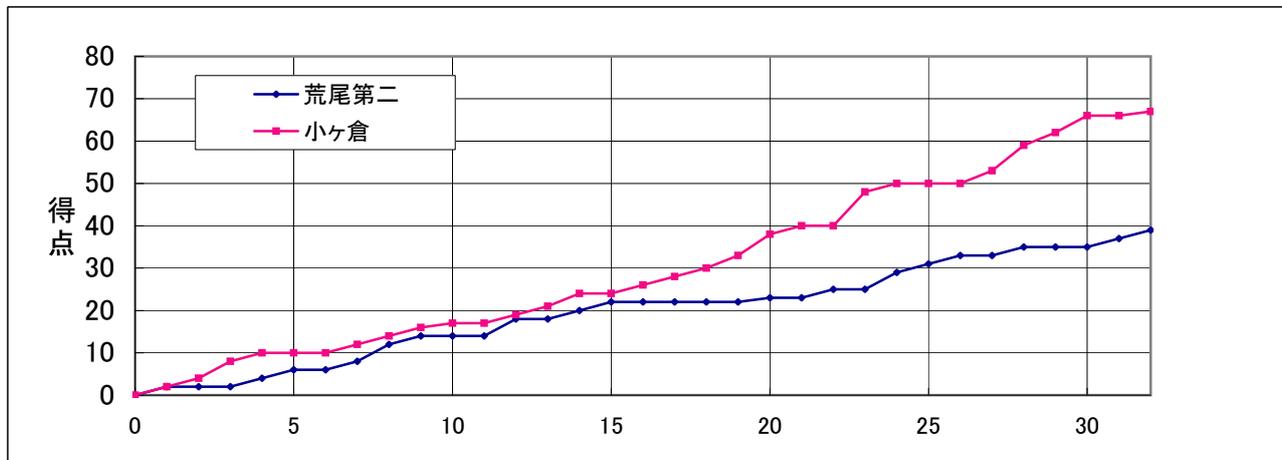


大会名	平成21年度 第30回全九州中学生 バスケットボール春季選手権大会	A3	12:10	男子1回戦													
		荒尾第二 39 (熊本2位) ●	<table border="1"> <tr><td>12</td><td>—</td><td>14</td></tr> <tr><td>10</td><td>—</td><td>12</td></tr> <tr><td>7</td><td>—</td><td>24</td></tr> <tr><td>10</td><td>—</td><td>17</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> </table>	12	—	14	10	—	12	7	—	24	10	—	17	—	—
12	—	14															
10	—	12															
7	—	24															
10	—	17															
—	—	—															
期日	2010年(平成22年)3月13日(土)																
会場	大分県立総合体育館																

主審 井上 聖也 副審 林田 誠



タイム・アウト(経過時間)

1Q・2Q	3Q・4Q	OT1	OT2
02:36 13:27	18:48 29:03	31:44	—

タイム・アウト(経過時間)

1Q・2Q	3Q・4Q	OT1	OT2
—	—	—	—

荒尾第二

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 藤丸 勇海 (C)	10	0	5	0	3
5	* 竹下 郁哉	10	0	5	0	1
6	* 岡田 尚輝	4	0	2	0	1
7	合原 徹	2	0	1	0	0
8	松岡 且樹	0	0	0	0	0
9	猿渡 裕太	0	0	0	0	0
10	右田 卓也	0	0	0	0	0
11	* 菊堂 裕己	4	0	2	0	0
12	鳥山 和徳	—	—	—	—	—
13	梅野 晃矢	0	0	0	0	0
14	* 浦川 朋也	9	0	4	1	3
15	副島 克昌	0	0	0	0	1
16						
17						
18						
コーチ	上原 泰					
合計		39	0	19	1	9

小ヶ倉

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 三根 一求 (C)	18	1	6	3	1
5	* 松尾 舜弥	7	0	3	1	0
6	* 山口 智也	10	2	2	0	1
7	* 山口 悟	5	0	2	1	3
8	* 山下 竜平	15	1	5	2	1
9	松岡 慎弥	0	0	0	0	0
10	桑宮 亮	—	—	—	—	—
11	野口 大樹	0	0	0	0	0
12	岩崎 拓哉	4	0	2	0	0
13	井手 威大理	2	0	1	0	1
14	濱野 健太	4	0	2	0	0
15	橋本 悠	2	0	1	0	0
16	中山 阜生	0	0	0	0	0
17	川原 悠	0	0	0	0	0
18	多良 信哉	0	0	0	0	0
コーチ	三根 正美					
合計		67	4	24	7	7

*…スターター (C)…キャプテン 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル R…リバウンド As…アシスト

戦評

1回戦第3試合Aコートでは、熊本第2代表荒尾第二中と長崎第1代表小ヶ倉中の試合が行われた。
ゲーム立ち上がりは、小ヶ倉#5松尾のディップオフからの速攻で試合が始まった。両チームともハーフマンツールからスタートした。荒尾第二#14浦川のゴール下のシュートで取り返すが、小ヶ倉のリバウンドからの速攻が決まり、小ヶ倉がリードを広げる。荒尾第二は#14浦川がディフェンスリバウンドにぐらいつき、点差を縮めていく。小ヶ倉はゴール下で失点をするが、一瞬の隙をつき、リードバスから得点に成功。1Qは、小ヶ倉が12-14の僅差のリードを守って終了した。

2Qは、小ヶ倉の得点からスタートした。ディフェンスは、1Qと同じハーフコートマンツール。小ヶ倉は、#5松尾のペネトレイトでファウルを誘い得点を重ねる。荒尾第二は、ルーズボールから速攻に持ち込み、一進一退の攻防を繰り返した。小ヶ倉#8山下のフェイダウェイシュートで得点に対し、荒尾第二#14浦川のディフェンスで対抗。お互いのディフェンスが機能し、イージーなシュートが決まらない展開が続いた。メンバーチェンジや荒尾第二のタイムアウトで流れをつかみたい両チームであったが、流れを引き寄せることができないまま、22-26小ヶ倉リードで前半を終了した。

3Qは荒尾第二のスローインから始まった。前半同様両チームともハーフマンツールでスタート。小ヶ倉はバスからアウトナンバーを作り#6山口智がミドルシュート。荒尾第二のパスミスを見逃さず、#7山口悟が速攻から得点。リードを10点に広げる。荒尾第二は、後半1回目のタイムアウトをとる。荒尾第二は、#14浦川のローポストにバスをいれ、パワープレーで勝負、ファウルを誘い得点。しかし、ハイオレーションで流れをとりもどせない。逆に、オフェンスリバウンドを取る小ヶ倉がセカンドチャンスから得点を重ねる。荒尾第二#5のペネトレイトから得点するが、リバウンドを支配される展開が続く。小ヶ倉がリードを広げていった。さらに、小ヶ倉#4三根の個人技でも得点を重ねる。荒尾第二は、厳しいディフェンスの中#4藤丸のミドルシュートで追いつくが、29-50と得点差が広がり、3Qが終了した。

4Qは、荒尾第二#14浦川のミドルシュートから始まった。両チームともディフェンスはハーフマンツール。荒尾第二#14浦川の速攻からの得点に対し、小ヶ倉は、#8山下の3Pで差を広げる。小ヶ倉はオールコートマンツールにチェンジ。#4三根と#6山口智の連続3Pでさらに差を広げる。残り3分をきったところで、荒尾第二が2回目のタイムアウトをとる。得点差は、27点に広がっていた。荒尾第二#5竹下が積極的にスティールを狙い、ぐらいつくが、小ヶ倉がセーフティリードを守り、39-67で小ヶ倉が勝利を収めた。荒尾第二も最後まであきらめず、粘り強く戦い、好ゲームであった。

© 2010 Yuzo Kosaka All Rights Reserved Vol.0063

記載者 西川、吉田 (所属) 大分県バスケットボール協会